



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 11
R6. 5. 8
(文責: 校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴよう・なかまとじぶん~

校長室は、暗唱にチャレンジする 子ども達の熱気でいっぱい!



写真は、校長室で暗唱にチャレンジする子ども達と見事合格し笑顔を見せる子ども達の様子です。恐る恐る校長室のドアをノックして、緊張した面持ちで暗唱にチャレンジする子ども達。そんな子ども達を迎える際、私はチャレンジ精神を称え、「よくチャレンジに来たね、その気持ち素晴らしいよ!」と声をかけます。そして、暗唱に成功し、安堵の表情で笑顔を浮かべる子ども達とハイタッチを交わし、喜びを分かち合います。

また、友達のチャレンジを側で見守り、応援する素敵な仲間の姿もあります。"なかまとじぶん"の「いい風景」が見られる校長室です。

「ことばの力」を考える①

「ひとつのことば」

北原白秋 作

ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり
ひとつのことばで 頭が下がり
ひとつのことばで 心が痛む
ひとつのことばで 楽しく笑い
ひとつのことばで 泣かされる
ひとつのことばは それぞれに
ひとつの心を 持っている
きれいなことばは きれいな心
やさしいことばは やさしい心
ひとつのことばを 大切に
ひとつのことばを 美しく

学校生活において、子ども達のトラブルの原因になっている一つに言葉遣いがあります。何気ない一言が相手を傷つけたり、けんかになったりすることがあります。

それとは反対に、友達が困っているときにかける優しい言葉や、友達の喜びを共に分かち合う言葉を聞くと、ほっこり温かい気持ちになることがあります。

左の詩は、「校長室暗唱チャレンジ」の中学年の課題、北原白秋の「ひとつのことば」です。言葉が持つ力を改めて考えさせられますね。私達大人がよいお手本になりたいものです。

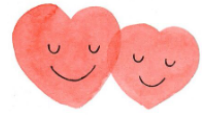
ご家庭でも、お子さんと一緒にこの詩を読んだり、言葉遣いについてお子さんと話し合ったりしていただければ幸いです。

👉 裏面もご覧ください

心づかいのできる子に ~校長講話(昼の放送)から~

本日の昼の校内放送で、「思いやり」と「心づかい」について子ども達に話しました。東日本大震災直後のテレビCMで『『思い』は誰にも見えないけれど、『思いやり』は見える』『『心』は誰にも見えないけれど、『心づかい』は見える』というフレーズが流れるものがありました。つまり、

「心」や「思い」というのは、行動が伴って初めて「心づかい」や「思いやり」になるのですね。



たとえば、みなさんの登下校の様子を見守ってくださる見守り隊や交通指導員などの方々への感謝の心を、「おはようございます」や「ありがとうございます」などのあいさつという形の行動で表すことも心づかいですね。そんな心づかいのできる人になってほしいと思います。

子ども達に以上のことを話した後、以前、私が勤めていた学校の保護者から頂いた手紙を紹介しました。登校班の子ども達の思いやりと心づかいに感謝する手紙です。

小学2年生の息子が、二学期の途中から毎朝学校に行くのを嫌がるようになりました。それまでは、元気に楽しそうに学校に通っていたので、急に学校に行くのを渋るようになり、びっくりしました。朝起きると、朝ごはんを食べ、玄関まではなんとか出るのです。私も息子を励ましながら、手を引いて、家から二十メートルほど離れた登校班の集合場所まで送っていかうとするのですが、泣きながら息子の足は止まってしまうのです。私は、ほかの子供たちが学校に行くのが遅くなってはいけないと思い、班長さんに先に行ってくれるよう声を掛ける日が何日か続きました。なぜ学校に行くのが嫌なのか、息子にいろいろ聞いてみるものの、何も言わない息子にどうしたものかと親の私も戸惑い、毎朝玄関先で泣く息子の手を握りしめながら、私も涙が出てきました。

そんな日が何日か続き、その日も、班長さんに先に行ってくれるように言いに行った後、玄関先で息子をなだめていたら、副班長さんと4年生の男の子が息子を迎えに戻ってきてくれたのです。私は二人が遅刻してはいけないと思い、「ありがとうね」とお礼を言って、先に行くように話をすると、「僕たちは大丈夫です。ぼくたちが遅れたら、先に行った班長が、ちゃんと遅れた理由を先生に話してくれるので、それよりも、〇〇君が僕たちと学校に行けないのが心配です。」「〇〇君、班のみんなも心配しているよ。僕たちがいるから、一緒に学校に行こう。」と言って、泣いている息子の手を握りしめてくれました。私が何を言っても行き渋っていた息子も、その言葉を聞くと、泣き止んで学校に行く気になったようでした。

男の子たちは、「おばちゃん、明日から、僕たちが玄関まで迎えに来ます。〇〇君待っててね。さ、行こう。」と息子の手引張って学校に連れて行ってくれました。

その言葉通り、次の日から、男の子たちは、毎朝息子を迎えに来てくれて、息子は行き渋ることが少なくなり、学校に行けるようになりました。

息子が学校に行けなくなってから、登校班のみんなが心配してくれていたそうです。みんなで迎えに行くと、みんなが遅れてしまうので、班長さんはみんなを学校に連れて行き、副班長さんと息子と仲の良かった4年生の男の子が迎えに行くことにしようと相談していたそうです。そのお陰で、息子は、あんなに行き渋っていたことが嘘のように今では元気に学校に通っています。

息子のことを気かけ、子供たちで相談して、息子のために行動してくれたことに、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、思いやりのある心の優しい子どもたちがこの学校にいることを知ってもらいたくて、手紙を書きました。本当にありがとうございました。

手紙を読んだ後、「大会やコンクールで活躍して坂下南小のみんなが賞をもらうことは、とても嬉しいけれど、校長先生は、こんなふうに思いやりや心づかいのできる子どもになってもらうことが、ものすごく嬉しいよ」と伝えました。

👉 **坂下南小のホームページ及びブログで、学校だよりのカラー版をご覧ください**